



教育の世界では「ティーチングからコーチングへ」というフレーズが飛び交うようになりました。コーチングについてわかりやすくご紹介します。



学習塾
S-class
<http://sclass.jp>

School NEWS
a
b



S-class LINE 公式アカウント

January
2018
#002

世の中の移り変わりの激しい現代は、答えのない世界です。皆が同じ常識をもつことは難しく、それぞれが自分自身の中に正しい答えを見つければなりません。そんな背景からコーチングが発展してきました。

コーチングと聞くと、スポーツのコーチを連想すると思いますが、コーチングの範囲はもっと広く、「相手の能力を引き出すテクニック」と考えてもらえると良いです。

コーチはアドバイスをしません。なぜなら正しい答えは本人の中にしか存在しないからです。コーチングの代表的な武器は「質問」です。色々な角度からの質問で、相手の心の中を反映(フィードバック)していきます。人の見た目ならば鏡を見れば確認できますが、人の考えていることはなかなか確認できないので、フィードバックはとても重要です。

悩み事があるとき、誰かに相談しただけで頭の中が整理されてスッキリした経験はないでしょうか？それと似た状況を、科学的な根拠をもとに再現していくものがコーチングだと考えていただけるとわかりやすいかもしれません。

勉強においては、何かわからないことがあっても、情報はいくらでもあるのが今の時代です。ネットの検索や映像授業は、学校や塾の先生よりも優秀です。ただし、何がわからないかは、本人の中に見つけようがありません。何がわからないかを引き出す、コーチングのテクニックが活用される場面です。

ティーチングの役割はネット検索や映像授業に任せて、生身の先生はコーチングによって生徒とコミュニケーションとったり、方向付けをするのに特化したスキルを磨くべきです。これが「ティーチングからコーチングへ」と言われる理由です。

Topics

中

学3年受験生はよいよ進路決定の時期です。勉強の方針としては模試などの実戦問題を解いていき、しっかり復習するのが良いです。目安としては解いた時間の1.5〜2倍の時間で復習をするべきです。特に理社は今からでも伸びるので力を入れていきましょう。

高3受験生はセンター

試験直前です。センター対策としては復習と解き慣れの感覚をつかむ時期になります。英語などの長文は毎日触れていないと感覚を忘れるので要注意です。数学に関しては実際の問題用紙の余白をどう使うかで結構差がきます。再利用する数式などは目立つように囲んでおくなど、細かいテクニックが

時間の節約になるので戦略を立てましょう。2年生はそろそろ学校の内容が難しくなってきたり、つまづくこともあるかもしれませんが、基礎からの積み上げが重要な英語・数学は1〜2年の復習をした方が受験対策的にも良い場合がよくありますので復習を重視した方が良いでしょう。

S-classの vol.2

スタッフコラム

「空白の修学旅行」

Staff Column



12 月の後半になると高2の生徒が修学旅行から帰ってきて土産話を聞かせてくれます。京都、大阪、広島あたりをまわって、USJなんかに行くみたいですね。中には海外に行く学校もあって、うらやましい限りです。

生徒たちの感想は、とにかく楽しかったという生徒もいれば料理が全く口に合わなかったとかいう生徒もいてそれぞれですが、いずれにしても10代の貴重な体験ですから一生忘れない思い出になるはずです。

みんなに驚かれるのですが、私自身は高校の修学旅行に行っていないです。うちの高校では修学旅行自体が無い期間が何年かあって、ちよつと私もそのときに在籍していましたので、高校の修学旅行には行って

ていないんです。残念です。

もし私が高校生で修学旅行に行ったらどんなところに行ったのか、いろいろ考えてしまいます。ジュラシックパーク大好き人間としてはUSJでたっぷり時間を使うだろうなあとか、観光では行かないようなディープなスポットを探しに行ったのかもしれないなあなど。生徒からの修学旅行の話聞く度に、そんな想像をふくらませています。

今月の担当者
三國 清志

青森市出身、青森高校55回生。TCS認定コーチ。のんびり自由に塾を運営しています。ピアノの練習はじめました。



な

ぜか心に残る言葉ってありますよね。学校の先生のおっしゃった言葉とかたまたま耳に入ったちよつとした言葉など、自分では意識していないのに記憶してしまっているという経験は誰しもあると思います。

もしかしたら自分が言った言葉が相手の心のどこかにひっかかるかもしれないと思いつつ、生徒たちに声かけをしています。

かなり前に、高校2年生のCくん「やる気がある時は誰だつてがんばる。やる気が無いときは本当の自分」という話をしました。例えばこんなに疲れていても家に入る時は靴を脱ぎます。これは完全に習慣化しているからです。勉強習慣も体に染み付けば「無」の感覚で、苦しくはあ



やる気が出ない

りません。どうやってやる気が出るかを考えるのではなく、やる気ゼロでも続けられる方法を考える方が得策だという話をしました。

それからしばらく経ったので、その話のことは完全に忘れていました。ところが先日、ちよつと疲れた様子のCくんがつぶやいたのは「今日はやる気出ないや、やる気なくてもできる方法を考えるんだ！」という言葉。まさか覚えていたとは思わなかったのですが、心のかたきその言葉がひっかかっていて、この前の定期テストで数学満点を取りました。